



ペルー大統領府（リマ）での衛兵交代式：“コンドルは飛んでいく”のメロディーに感動



インカ時代の石壁（クスコ）：隙間がなく複雑にかみ合わせることで耐震性増



インカ帝国征服後のスペイン人による石壁



アルマス広場（クスコ）の建造物：煉瓦積？ 耐震性？



リマの住宅：雨がほとんど降らないため、天井板を乗せた程度の屋根が多い



平屋建ての屋根に鉄筋等が立ち上がった状態の建物が多い。金が貯まったら2階を増築するとのことであるが、このまま廃墟となることも多いとのこと。



竹資材：赤道を中心として、世界中に分布するようであり、ここでも建築等に利用されていた。



治安：予定では昨年訪れるつもりであったが、渡航禁止区域に指定され断念。市街地は夜中中防犯灯で照らされており、治安状況を実感できた。



治安：日系移民経営の土産物店入り口。防犯のため、要塞のような高い壁で囲われており、予約者のみ入店できる。
日本からの移民は沖縄の人が多いとのこと…



デモによる道路封鎖の定番（クスコ）：
石や巨木を並べ、主に観光産業？を妨害。
（ペルーの国内産業では観光業が第3位）



道路（クスコ）：交差点の信号機はほとんど見られなかった。



道路中央の排水溝？（クスコ）：



懐かしのオート三輪車：

近年韓国車が幅を利かすようになったとのこと。価格攻勢によるものであり、品質面では日本車に圧倒的サポートがあるとのこと。

ちなみに、○国の車（タクシー）は数ヶ月で廃車となることも・・・



ネイティブ？



野焼き（クスコからマチュピチュへの車中）
放牧のための野焼きが行われており、喬木はほとんどみられなかった。



岩塩（クスコからマチュピチュへの車中）
湧出する塩水を利用して製造



海岸砂漠（リマからナスカへの車中）
緑化（植栽）状況



海岸砂漠：海岸沿いでは所々貯水地が出現



海岸砂漠：アンデス山脈からの伏流水を利用した農地。
巨礫混じり土状であり、日本のように大型農
機具で攪拌することはできないのでは
…せいぜい鋤こす程度か？
…写真では5～6名の人が作業中



河川：

コンクリート構造物をほとんど見ることがなかった。
河川では護岸といったものがないため、濁水が発生しやすい。



法面保護（リマ市内）：

雨がほとんどないことから、砂礫状の斜面でも樹脂製ネットで保護するのみ。



クスコ市街（クスコ国際空港より）：

標高 3400m. 到着半日後ぐらいに、高山病による軽い頭痛とふらつきを感じた。用意された酸素ボンベの助けを受ける人もいたが・・・

逆にクスコの人達が低地に移動すると、同様の体調不良をきたすとのこと（低山病）

ちなみに、クスコ国際空港は 24h 営業を目的に、移転を計画中とのこと。